

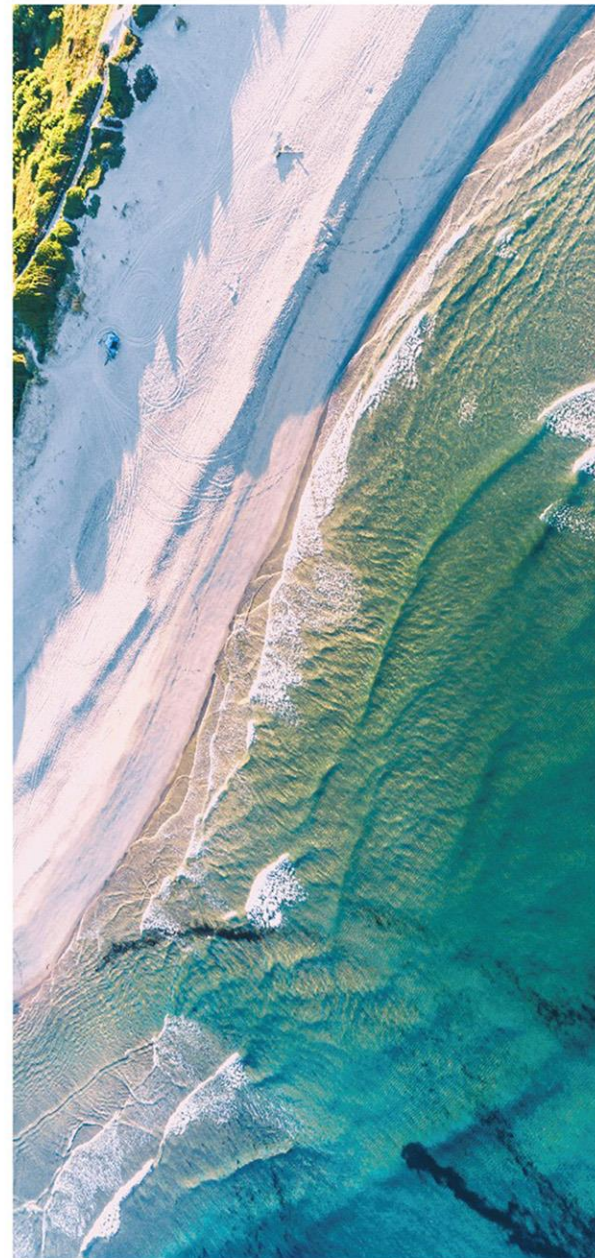
2025年3月期決算^{及び} 新中期経営計画（2025～27年度） Going Beyond 2027 ～変革と完遂～

説明資料

積水化成品工業株式会社

（東証プライム 証券コード：4228）

2025年 5月15日



INDEX

- 1 FY2024 決算概要
- 2 前中期経営計画（Spiral-up 2024）総括
- 3 新中期経営計画（Going Beyond 2027～変革と完遂～）概要
- 4 資本コストや株価を意識した経営の実現への対応

INDEX

- 1 FY2024 決算概要
- 2 前中期経営計画（Spiral-up 2024）総括
- 3 新中期経営計画（Going Beyond 2027～変革と完遂～）概要
- 4 資本コストや株価を意識した経営の実現への対応

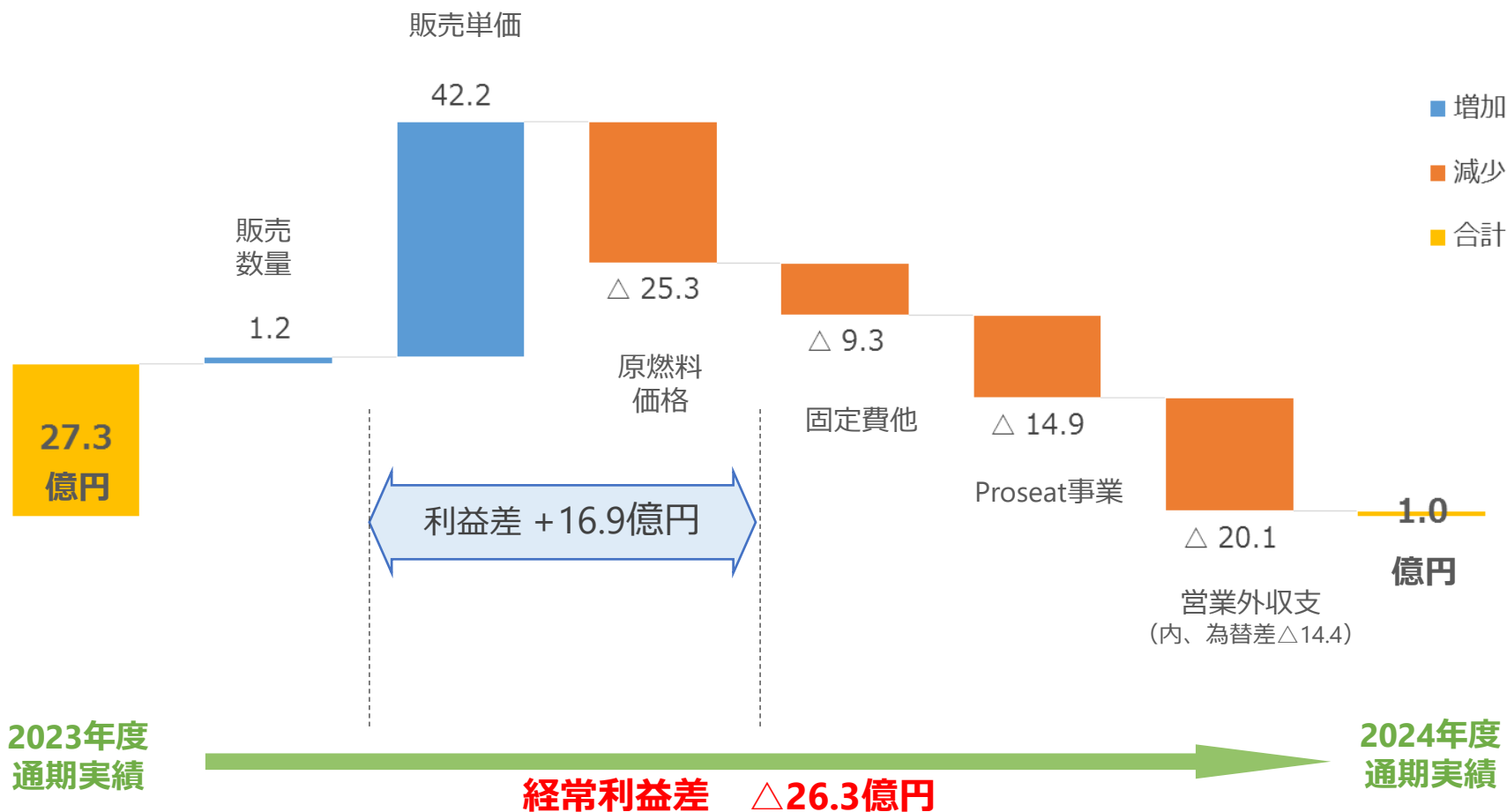
2024年度 決算概要

(単位：億円)	FY2023	FY2024		YoY	
	実績 (A)	見通し *2024/10/29公表 (B)	実績 (C)	(C)-(A)	
売上高	1,303	1,340	1,371	+68	105%
営業利益	13	10	6	△6	51%
<営業利益率>	<1.0%>	<0.7%>	<0.5%>		
経常利益	27	7	1	△26	4%
親会社株主に帰属する 当期純利益	11	4	△ 63	△74	—
R O E	1.9%	—	—	—	—

- 売上高 販売数量は前年並みも、物価高などの価格転嫁効果もあり「増収」
- 営業利益 欧州Proseat事業の低迷、固定費増加により「減益」
- 最終利益 欧州Proseat事業売却の方針決定に伴う減損損失などの計上で「大幅減益」

2024年度 経常利益増減要因（対前年比）

[単位：億円]



2024年度 インダストリー分野（全体）

(単位：億円)	FY2023 実績 (A)	FY2024		YoY	
		見通し *2024/10/29公表 (B)	実績 (C)	(C)－(A)	
売上高	812	820	821	+9	101%
営業利益 <営業利益率>	19 < 2.4% >	17 < 2.1% >	4 < 0.5% >	△15 —	21% —
経常利益	24	—	5	△18	23%

- 売上高 欧州Proseat事業で「増収」、分野全体としては「前年並み」
- 利益面 基盤事業は「前年並み」も、欧州Proseat事業の損失拡大が影響し「大幅減益」

2024年度 インダストリー分野（基盤事業）

(単位：億円)	FY2023 実績 (A)	FY2024		YoY	
		見通し *2024/10/29公表 (B)	実績 (C)	(C)－(A)	
売上高	440	443	436	△4	99%
営業利益 <営業利益率>	34 < 7.8% >	34 < 7.7% >	34 < 7.8% >	△0 —	99% —

●売上高、営業利益ともに「前年並み」

(売上高増減)

- ・エレクトロニクス : 前年比 99% (ポリマー微粒子、液晶部材梱包材)
- ・モビリティ ※Proseat事業除く : 前年比 103% (自動車部材、自動車部品輸送用梱包材)
- ・医療・健康 : 前年比 95% (高機能ゲル素材および加工品、エラストマー発泡体)

2024年度 インダストリー分野（Proseat事業）

(単位：億円)	FY2023 実績 (A)	FY2024		YoY	
		見通し *2024/10/29公表値 (B)	実績 (C)	(C)－(A)	
売上高	372	377	385	+14	104%
営業利益	△15	△18	△30	△15	—
<営業利益率>	—	—	—	—	—

- **売上** 欧州自動車メーカー生産の大幅減の一方で、人件費や物価高騰分などの価格を顧客へ転嫁（販売単価上昇）したことで、**前年比「増収」**
- **利益** 人件費やエネルギー価格高騰を背景とした価格交渉を顧客と妥結したが、欧州自動車メーカーの生産が想定以上に減少し、**前年比「赤字拡大」**
- **事業譲渡** 欧州経済や自動車生産台数の回復には時間を要すものと判断し、**Proseat事業の譲渡方針および清算を決定（👉 詳細P14）**

2024年度 ヒューマンライフ分野

(単位：億円)	FY2023 実績 (A)	FY2024		YoY	
		見通し *2024/10/29公表値 (B)	実績 (C)	(C)－(A)	
売上高	491	520	550	+59	112%
営業利益 <営業利益率>	18 < 3.6% >	19 < 3.7% >	31 < 5.6% >	+13 —	175% —
経常利益	18	—	30	+12	168%

- 売上 シート事業は、食品トレー向けやカップ麺容器向けが好調で「大幅増収」、ビーズ事業は、販売減も価格転嫁効果で「前年並み」、分野全体として「増収」
(売上高増減) ・食 : 前年比 113%
・住環境・エネルギー : 前年比 105%
- 利益 上期に価格転嫁遅れで収益悪化も、下期以降に価格転嫁効果が表れ「大幅増益」
- 数量 シート : 前年同期比 103% ビーズ : 前年同期比 93%

2024年度 財政状況

Spiral-up 2024

(単位：億円)	FY2023 (A)	FY2024 (B)	YoY (B)－(A)
総資産	1,465	1,362	△103
純資産	568	496	△72
自己資本比率	38.3%	35.9%	△2.40%
1株あたり純資産 (円)	1,235円52銭	1,075円86銭	△159円66銭
(参考) 自己資本	560	489	△71
現金及び預金	109	95	△14
短期借入金	144	224	+80
長期借入金	164	96	△68
社 債	70	70	±0
有利子負債 (リース債務除く)	378	390	+12
D/Eレシオ (倍)	0.68	0.79	+0.11

- 当期純損失の計上により純資産と自己資本が減少、D/Eレシオは上昇
- 有利子負債の削減と自己資本比率の向上を図る (※詳細  P36)

INDEX

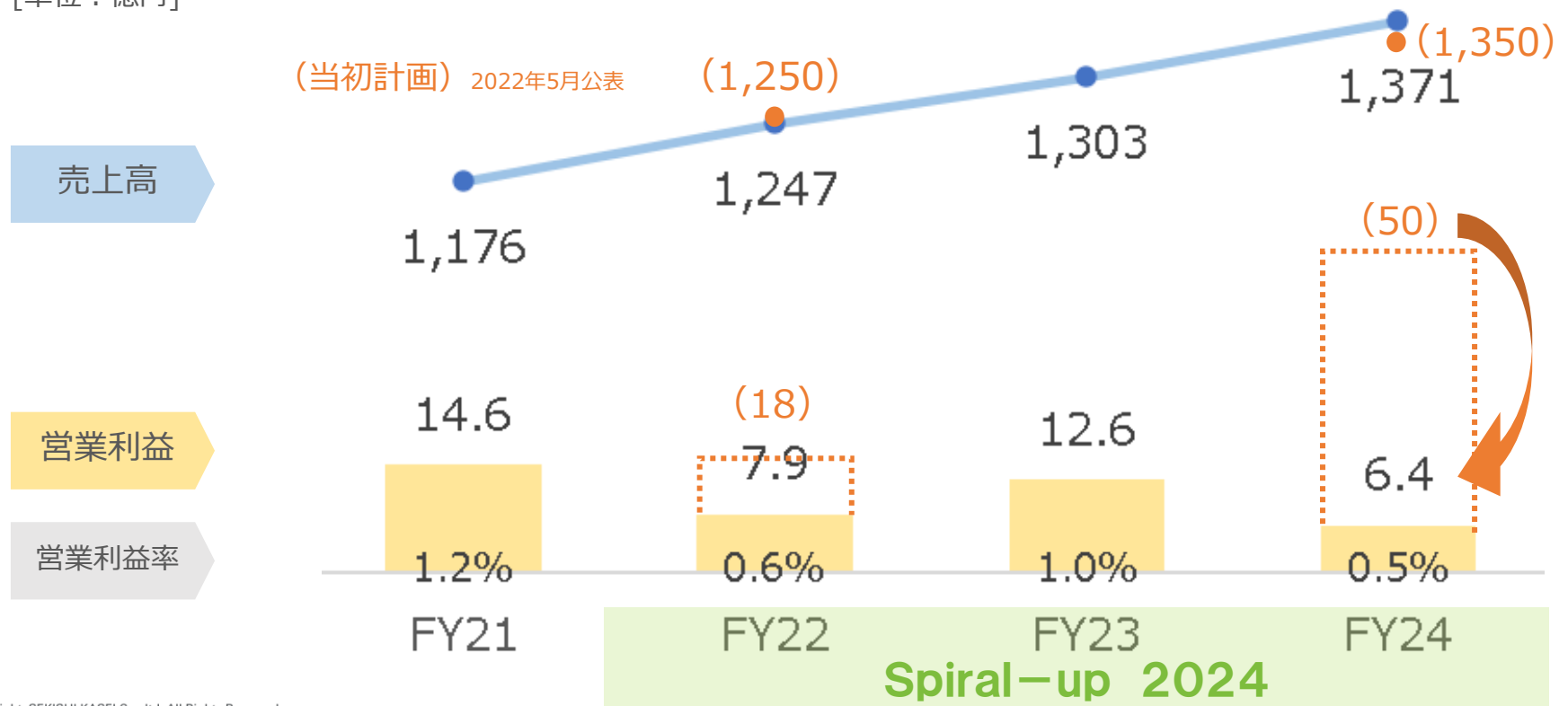
- 1 FY2024 決算概要
- 2 前中期経営計画（Spiral-up 2024）総括
- 3 新中期経営計画（Going Beyond 2027～変革と完遂～）概要
- 4 資本コストや株価を意識した経営の実現への対応

前中期経営計画総括（①連結業績）

売上高は当初計画並みで推移、利益は大きく下振れ

- ・売上高 : 販売数量減の一方、価格転嫁効果が下支えし、当初計画比で「見通し並み」
- ・営業利益 : 主にインダストリー分野の業績低迷で、当初計画比で「大幅下振れ」

[単位：億円]



前中期経営計画総括（②セグメント別業績）

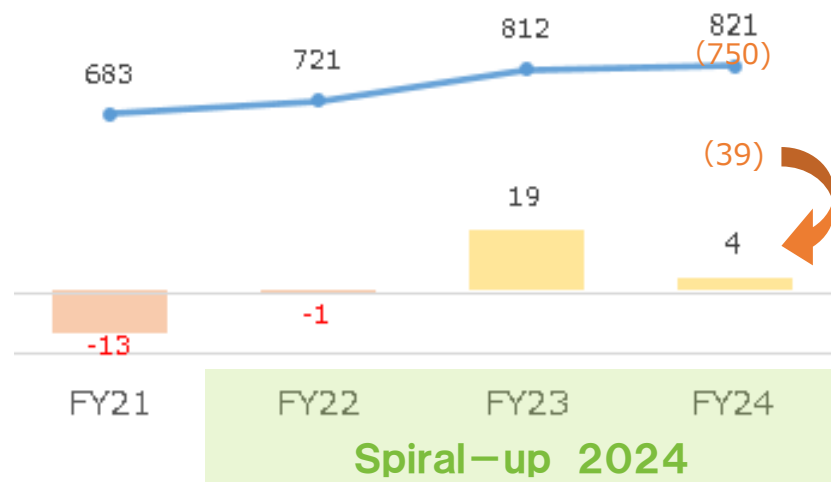
特に、インダストリー分野で利益が大きく下振れ



() 内の数値は、当初計画値 ※2022年5月公表

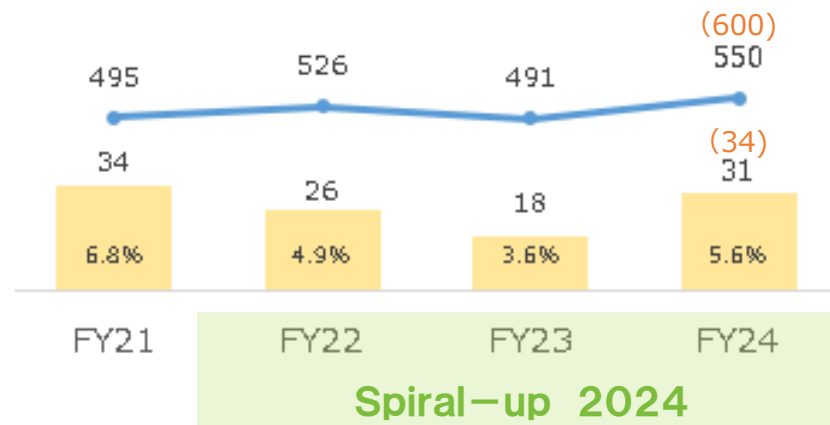
[単位：億円]

■ インダストリー分野



売上は上振れするも、営業利益は
当初計画比で「大幅な下振れ」

■ ヒューマンライフ分野



E P S ビーズ市場の縮小（魚函等）で、
売上・営業利益とも「当初計画に届かず」

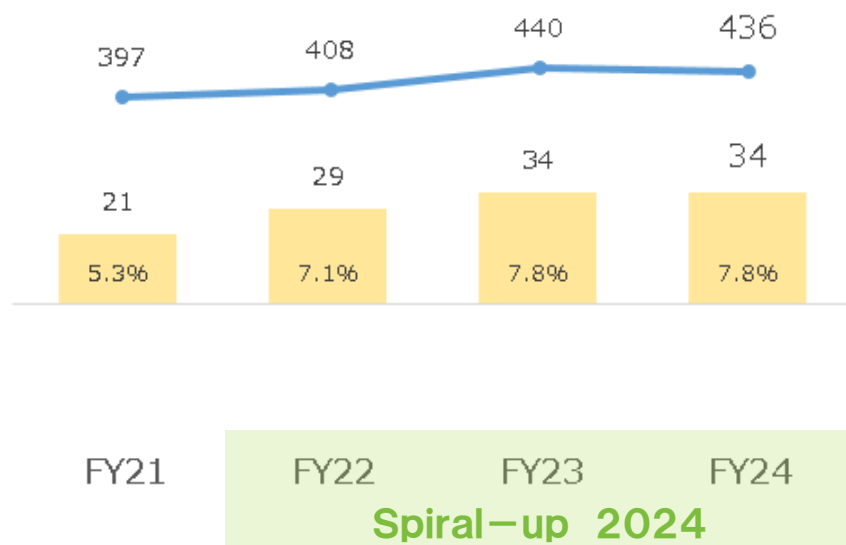
前中期経営計画総括（②セグメント別業績）

Spiral-up 2024

欧州Proseat事業がインダストリー分野の利益を大きく押し下げ

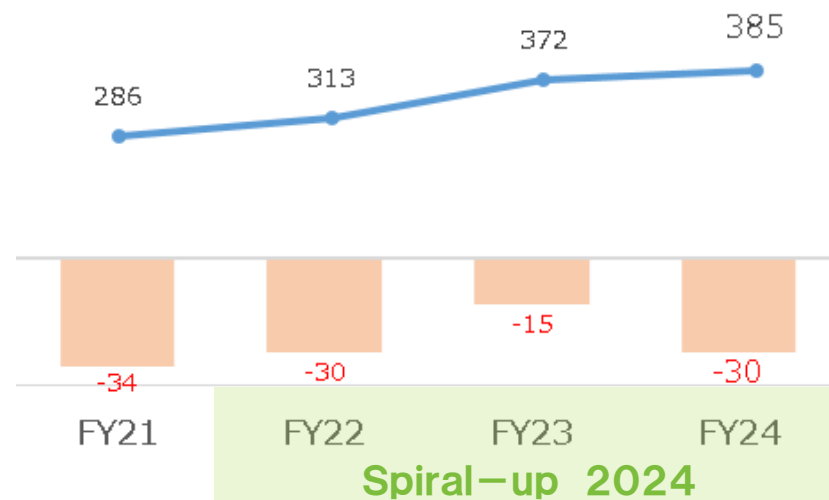
[単位：億円]

■ インダストリー分野（基盤事業）



売上高、営業利益、営業利益率
すべてが3か年で伸長した

■ インダストリー分野（Proseat事業）



Spiral-up 2024 期間内での
黒字転換を実現できず

前中期経営計画総括（③Proseat事業譲渡）

欧州Proseat事業の譲渡方針および清算を決定

No.	種別	会社名	所在国	機能	
0	子会社	Proseat Europe GmbH	ドイツ	HD会社	
1	孫会社	Proseat GmbH & Co.KG	ドイツ	本社・生産	Brose Sitech 社へ譲渡 (交渉中)
2		Proseat Verwaltung GmbH	ドイツ	資産管理	
3		Proseat Schwarzheide GmbH	ドイツ	生産	
4		Proseat Sp.Z.o.o	ポーランド	生産	
5		Proseat Mlada Boleslay s.r.o	チェコ	生産	
6		Proseat Foam Manufacturing S.L.U	スペイン	生産	
7		Proseat SAS	フランス	生産	清算手続中
8		Proseat LLP	英国	生産	

- Proseatグループ6社を、ポーランドの自動車部品メーカー「Brose Sitech社」へ譲渡
- Proseat LLP（英国）と、Proseat SAS（フランス）の2社の清算手続きを開始
- Proseat Europe GmbH（HD会社）は、傘下の英国とフランスの会社が清算中につき、今後については未定
- 上記、譲渡・清算に伴う減損損失や事業整理損（計54億円）を、FY2024に計上
- 本件クロージングはFY25上期となり、営業利益▲12億円、当期利益▲27億円の影響を予定（計画織込済）
- 欧州自動車OEMへの当社製品のスペックイン活動は、Sekisui Kasei Deutschland（SKDE）が継続

前中期経営計画総括（④新製品・新規用途展開）

新製品や新用途開発で、今後の成長に向けた準備を整えた

低発泡PSP
(エスレンシートPZ)

他素材からの置換えに成功



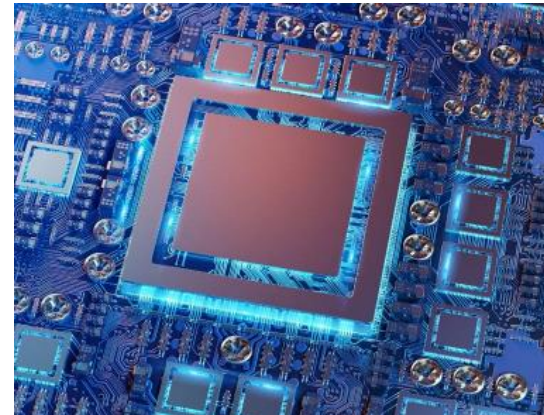
光拡散ポリマー微粒子
(テクポリマー)

デイライトなど用途展開が進む



中空ポリマー微粒子
(テクポリマー)

低誘電材料用途でテスト販売



他にも、

- エスレンビーズRNW : 生協宅配箱の採用エリア拡大、軽量盛土工法用EPSブロックで採用
- ピオセラン2.0 : 高発泡（軽量化）、低発泡（高強度）の新グレードで競合素材と差別化
- テクノゲル : 脳波測定用途で新規採用、スタートアップ企業との協業開始

前中期経営計画総括（⑤ESGへの取り組み）

環境・社会課題解決型事業への転換は、着実に前進

1. SKG-5R 2030年環境目標達成に向け、順調な推移

	FY2024実績見通し	(FY2030目標)
① 環境貢献製品売上高比率	20%	(50%)
② リサイクル、バイオマス原材料使用比率	18%	(50%)
③ CO2排出削減量 (Scope1+2 2018年度比)	▲24%	(当初目標▲27%→ <u>▲45%に目標修正</u>)

※ SKG-5R は、3R (Reduce, Reuse, Recycle) に、独自の2R (Replace, Re-create) を加えた、当社の環境貢献活動名であり、2030年の到達目標を設定しています

2. 「発泡スチロール」自主回収・再資源化事業をスタート

当社国内グループ会社各拠点で、発泡スチロールの再資源化に向けた地域回収を全国的に開始した

※ 経済産業省・環境省「プラスチックに係る資源循環の促進等に関する法律」に基づく再資源化事業計画の認定を取得

3. 「発泡スチロール to 発泡スチロール」水平リサイクル実証事業をスタート

使用済み発泡スチロールのインゴットを当社でペレット化、スチレンモノマーと重合・含浸させ、「バージン原料と遜色ない品質のリサイクルEPSビーズ」の量産技術確立を目指す

※ 環境省「令和5年度 脱炭素型循環経済システム構築促進事業」に採択

前中期経営計画総括（⑤ESGへの取り組み）

ESGに関連する外部評価

ESG全般

The logo for Nikkei Smart Work, featuring the word "NIKKEI" in blue above "Smart Work" in large black letters.

2025

日経Smart Work経営
3星認定

E：環境

エコ・ファースト企業
環境大臣認定

S：社会

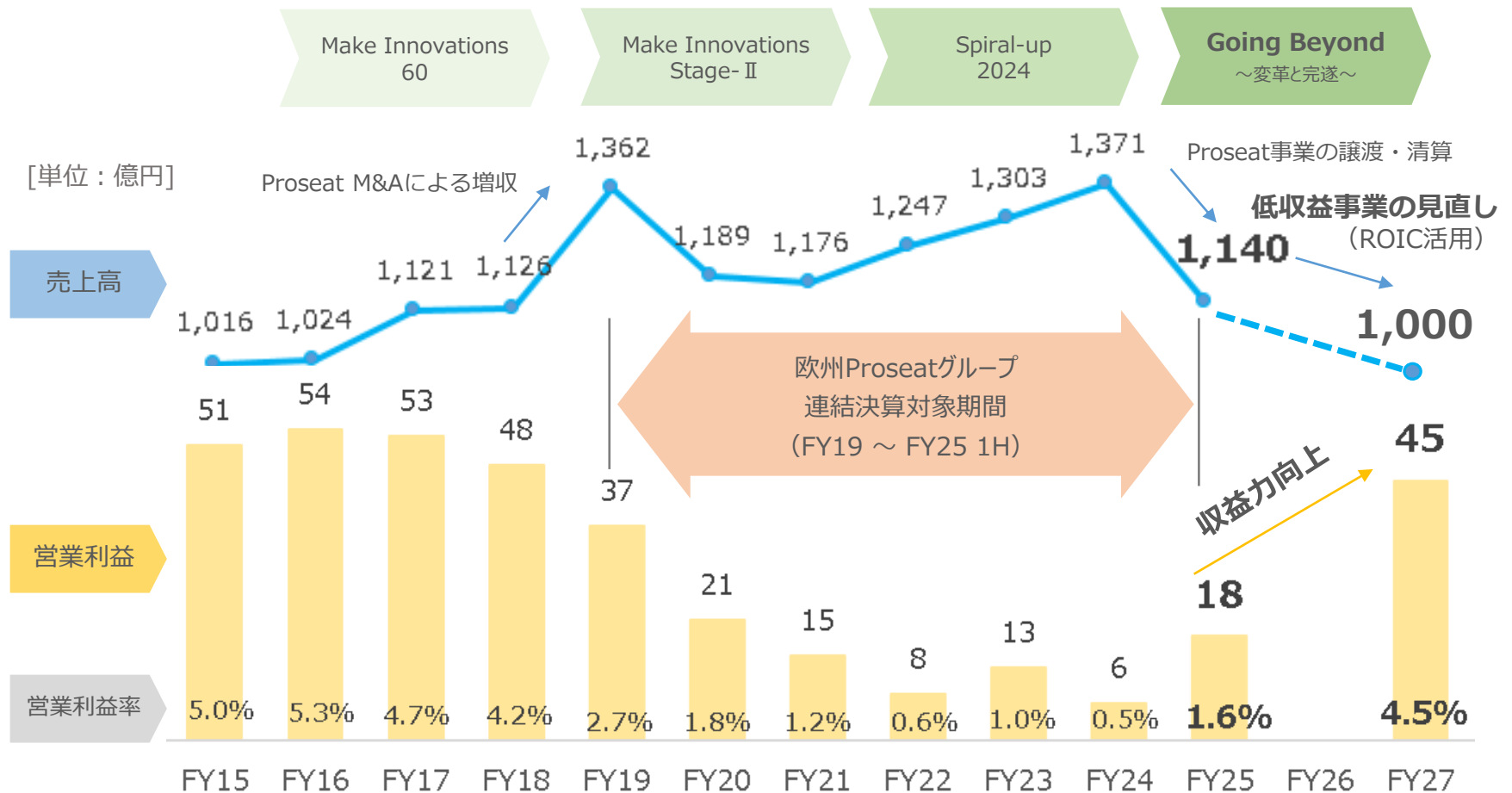
健康経営優良法人
大規模法人部門認定日経SDGs経営
3星認定CDP気候変動レポート 2024
気候変動プログラム Bスコア認定健康経営優良法人
中小規模法人部門認定

INDEX

- 1 FY2024 決算概要
- 2 前中期経営計画（Spiral-up 2024）総括
- 3 新中期経営計画（Going Beyond 2027～変革と完遂～）概要
- 4 資本コストや株価を意識した経営の実現への対応

新中期経営計画の位置づけ

収益性向上を最重要視した3か年計画とし、
2030年度ROE=8%目標に向け、高収益事業へのポートフォリオ変革を完遂する



新中期経営計画の概要

■ 計画名称：**Going Beyond 2027** ～変革と完遂～

■ 基本方針：意識・行動変革による「収益力の強化」と「経営基盤の強化」を完遂し、企業価値向上に繋げる

■ 業績目標：重要業績評価指標を、「営業利益率」と「ROE」とする

	Spiral-up 2024	Going Beyond ～変革と完遂～		Target 2030
	2024年度 実績	2025年度 計画	2027年度 計画	2030年度 目標
売上高	1,371 億円	1,140 億円	1,000 億円	(1,200億円)
営業利益	6 億円	18 億円	45 億円	(100億円)
営業利益率	0.5%	1.6%	4.5%	8.0%以上
経常利益	1 億円	14 億円	43 億円	—
当期純利益	△ 63 億円	0 億円	29 億円	—
ROE	—	—	6.0%	8.0%以上

※ 新中期経営計画の前提レート：為替 145円/USD、ナフサ価格 69,000円/kℓ

※ Proseatグループの事業譲渡に伴い、2030年度目標を一部修正した（従来目標：売上高1,600億円、営業利益130億円）

新中期経営計画の重点課題

収益力の強化

新たな価値創造
+
ビジネスモデル戦略

① 収益基盤の強化と収益力向上

- ・ 高付加価値事業や成長市場への経営資源投下
- ・ ROICを活用した低採算事業の見直しや再編

② 環境貢献ビジネスの収益力強化

- ・ 独自のリサイクル製品群（ReNew+）や低発泡PSP（エスシートPZ）の拡販
- ・ 技術革新や回収システムを含めた独自ビジネスモデルによる競争優位性の確立

③ 生産革新と現場力強化によるコスト競争力の強化

- ・ 生産DX推進、新技術導入、SKG改善活動など

経営基盤の強化

資本効率性
+
E S G

④ 資本効率や資本コストを意識した経営の実践（※詳細 P31～39）

- ・ 高収益化に向けた事業ポートフォリオマネジメントの遂行
- ・ 有利子負債および棚卸資産の圧縮、本社コストの抑制
- ・ 政策保有株式縮減による成長投資の加速と株主還元

⑤ 環境・社会課題解決に向けた取り組み強化

- ・ 資源循環推進（再生可能資源の安定的確保と低コスト高品質リサイクル技術の確立）
- ・ 気候変動対応（太陽光PPAや生産エネルギー転換）

⑥ 人的資本経営の推進とガバナンス強化

- ・ 従業員エンゲージメント向上、ダイバーシティ推進、グローバルガバナンス強化

セグメント別業績見通し

(単位：億円)	FY2024	FY2025			FY25-24 対比		FY2027	FY27-24 対比	
	Result	1H	2H	Plan			Plan		
売上高	1,371	650	490	1,140	△231	83%	1,000	△371	73%
インダストリー（基盤事業）	436	210	220	430	△6	99%	470	+34	108%
インダストリー（Proseat）	385	180	—	180	△205	47%	—	△385	—
ヒューマンライフ分野	550	260	270	530	△20	96%	530	△20	96%
営業利益	6	2	16	18	+12	281%	45	+39	703%
< 営業利益率 >	0.5%	0.3%	3.3%	1.6%	—	—	4.5%	—	—
インダストリー（基盤事業）	34	15	19	34	+0	100%	47	+13	139%
インダストリー（Proseat）	△ 30	△ 12	—	△ 12	+18	—	—	+30	—
ヒューマンライフ分野	31	14	11	25	△6	81%	31	+0	100%
本社コスト	△ 29	△ 15	△ 14	△ 29	△0	102%	△ 33	△4	116%

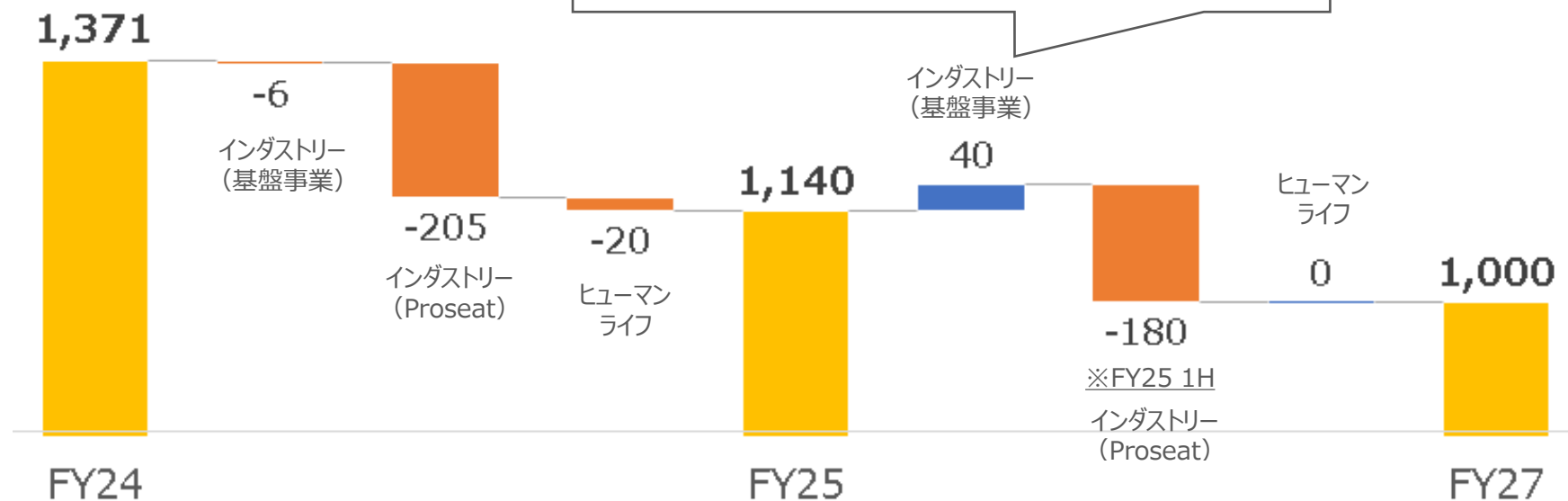
※ 本社コストにはDXなどのシステム費用などを含む

売上高増減見通し

■ 合計 ■ 増加 ■ 減少

エレクトロニクス +12 (ポリマー微粒子販売増など)
モビリティ +22 (北米、日本国内の自動車部材販売増など)
その他 +6 (高機能ゲル販売増など)

[単位：億円]



差異 △231億円

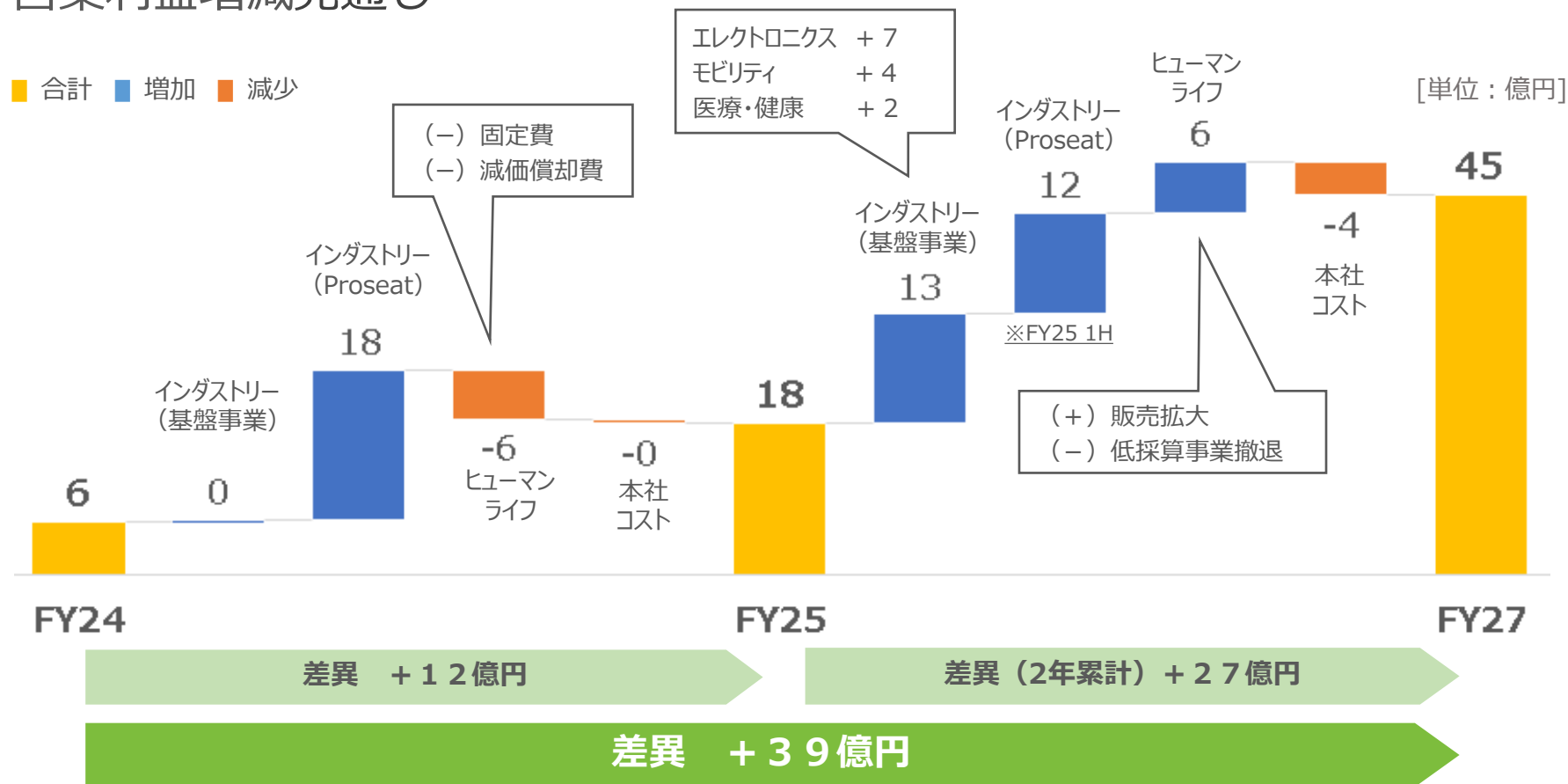
差異 (2年累計) △140億円

差異 △371億円

- ・インダストリー (基盤事業) : 販売拡大により「増収」 (+ 34億円)
- ・インダストリー (Proseat事業) : 事業譲渡に伴い「減収」 (△ 385億円)
- ・ヒューマンライフ : 不採算事業見直しにより「減収」 (△ 20億円)

営業利益増減見通し

■ 合計 ■ 増加 ■ 減少



- ・インダストリー（基盤事業）：販売拡大に伴い「増益」 (+13 億円)
- ・インダストリー（Proseat事業）：事業譲渡に伴い「増益」 (+30 億円)
- ・ヒューマンライフ：設備投資・固定費増と、収益改善分が均衡 (±0 億円)

5 事業領域別見通し（エレクトロニクス領域）

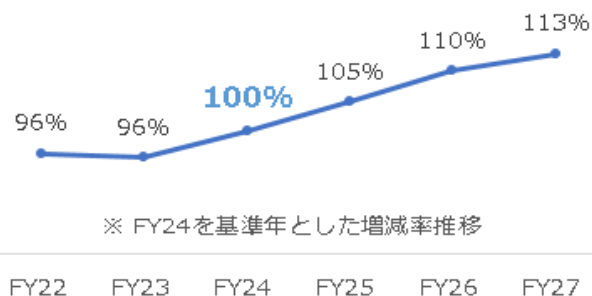
● 主要製品と用途

「テクポリマー」 液晶ディスプレイの光拡散剤、塗料の艶消し剤として

「ピオセラン」 液晶ディスプレイや各種産業製品の梱包材として

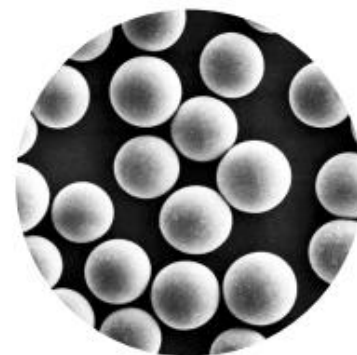
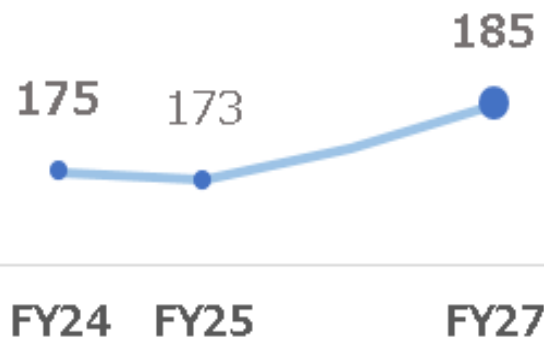
「ライトロン」 電子部品など産業部品の表面保護材として

液晶ディスプレイ面積
[m2]



※ FY24を基準年とした増減率推移

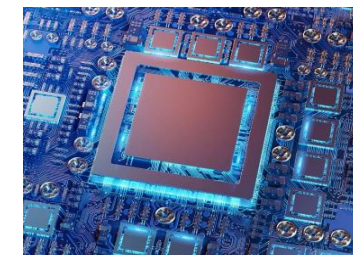
エレクトロニクス
売上高（億円）



「テクポリマー」
ポリマー微粒子



デイトタイムランニングライト
（光拡散効果）



情報通信高速化用途
（低誘電性能）

● 成長戦略

・ 「テクポリマー」の販売拡大

既存用途 ： 液晶ディスプレイ光学用途（光拡散・防眩）、塗料用途など

新規用途 ： 自動車ライティング、新型ディスプレイ、情報通信高速化用途など

5 事業領域別見通し（モビリティ領域）

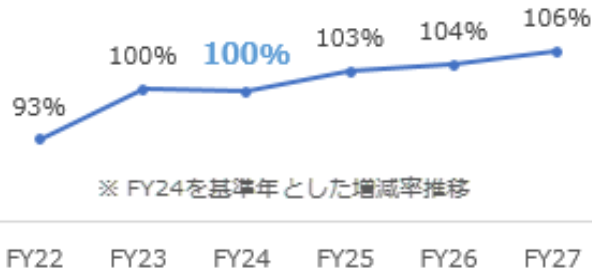
● 主要製品と用途

「自動車部材」

シート芯材、衝撃吸収材、嵩上材、ツールボックスなどの自動車部品として

「自動車部品梱包材」

大型重量部品、精密部品、電子部品、EVモーターなどの輸送用梱包材として

世界自動車生産台数
〔台〕モビリティ
売上高（億円）

「自動車部材」

● 成長戦略

- ・「自動車部材」 成長市場への投資（北米生産能力増強）
軽量・高強度グレード「ピオセラン2.0」による競合品との差別化
高耐熱軽量発泡体「ST-Eleveat」スペックイン拡大
- ・「自動車部品梱包材」 米国関税による部品物流の変化を注視（リスクと機会の双方）



「自動車部品梱包材」

5 事業領域別見通し（医療・健康領域）

● 主要製品と用途

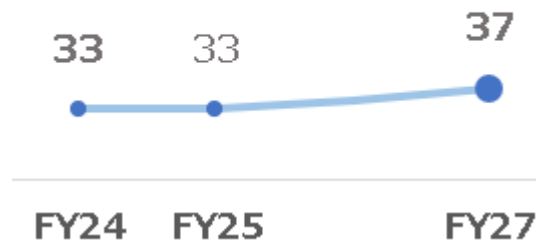
「テクノゲル」	医療：心電図用電極、電気手術器用対極板、ECG電極として 健康：電気刺激機器（TENS/EMS）、生体信号測定用ウェアラブルデバイス向けとして 美容：保湿用フェイスマスクとして
「エラストイル」	シューズのミッドソール部材として

● 関連する業界トレンド

- ・ 健康志向の高まり
- ・ 少子高齢化、健康寿命延伸
- ・ ウェアラブル生体センシング
- ・ 在宅介護、遠隔医療技術の発展と普及
- ・ 技術革新（ブレインテックなど）

医療・健康

売上高（億円）



「テクノゲル」
高機能ゲル素材

● 成長戦略

- ・ 「テクノゲル」 新規用途開発の継続（ウェアラブルデバイス向け、脳波測定用途など）
新規グレードの投入（長時間センシング、運動時、高湿潤環境向け）
- ・ 「エラストイル」 シューズのミッドソールに続く新規用途開発を継続

※本領域は、次期中計（FY28-30）における高収益基盤事業のひとつとして育成する



「エラストイル」
エラストマー発泡体

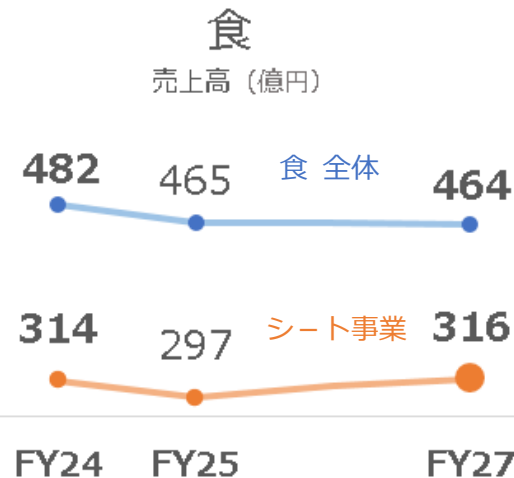
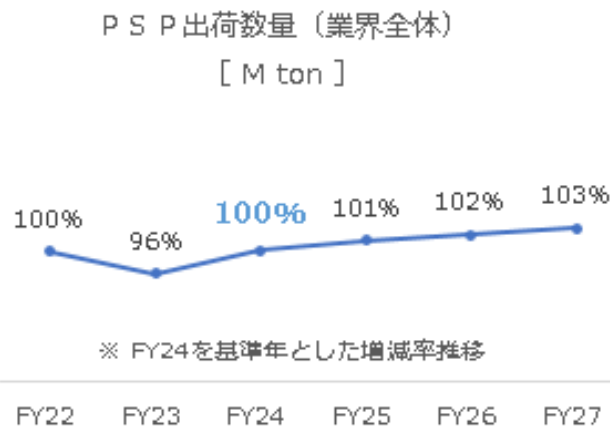
5 事業領域別見通し（食領域：シート）

● 主要製品と用途

「エスレンシート」（一般品） 食品トレーとして
 （ラミネート品）カップ麺容器として
 「エスレンウッド」 折箱弁当容器、食品台紙、POPとして



「エスレンシート」
一般品
発泡ポリスチレンシート



「エスレンシート」
ラミネート品
発泡ポリスチレンシート

● 成長戦略

- ・ 低発泡PSP（エスレンシートPZ）によるプラ使用量削減を背景とした非発泡プラの置き換え
- ・ 低採算事業の見直しによる収益性の向上
- ・ 生産革新と現場力強化によるコスト競争力の強化



「エスレンウッド」
発泡ポリスチレン板状成形品

5 事業領域別見通し（食領域：ビーズ）

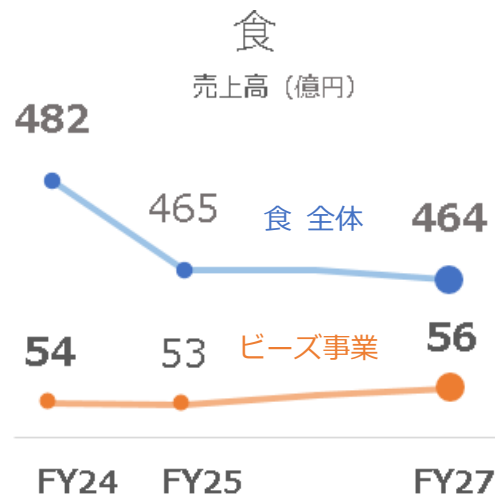
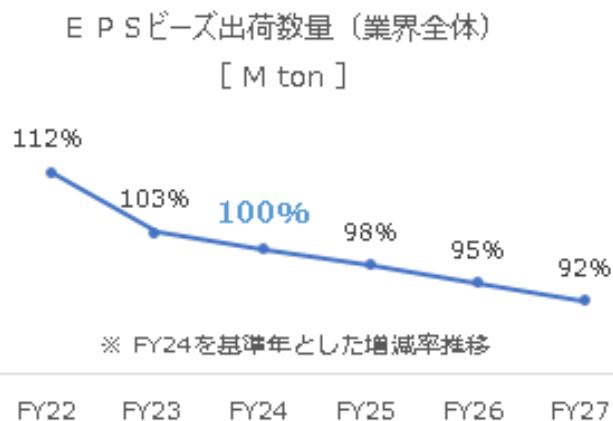
● 主要製品と用途

「エスレンビーズ」

水産・農産品などの食品保冷容器、産業用梱包材、建設資材など



「エスレンビーズ」
発泡性ポリスチレンビーズ



「エスレンビーズ」成形加工品

● 成長戦略

- ・ リサイクルEPS（エスレンビーズRNW）の拡販による業界内シェアの向上
- ・ エスレンビーズRNW生産・供給体制の増強
- ・ 生産革新と現場力強化によるコスト競争力の強化



「エスレンビーズ RNW」
リサイクル発泡性ポリスチレンビーズ
成形加工品

5 事業領域別見通し（住環境・エネルギー領域）

● 主要製品と用途

- 「エスレンブロック」 軟弱地盤や急傾斜地に用いる軽量盛土材として
- 「アクアロード」 ゲリラ豪雨などによる道路冠水対策として
- 「スーパーソイレン工法」 人工構造物上に敷設する軽量緑化システムとして

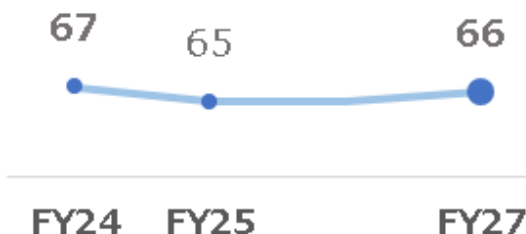
● 関連する業界トレンド

（土木）防災/減災需要の拡大
豪雨による道路冠水対策
都市再開発、緑化

（建築）住宅着工件数減少

（エネ）水上ソーラー発電の普及

住環境・エネルギー
売上高（億円）



● 成長戦略

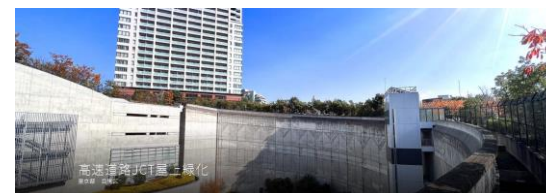
- ・ リサイクルEPS（エスレンビーズRNW）による、グリーン調達でのEPS土木工法の市場内シェア向上と緑化事業の拡大
- ・ 低採算事業の再構築による収益力向上



「エスレンブロック」
EPS土木工法用 軽量盛土材



「アクアロード」
雨水貯留浸透システム



「スーパーソイレン工法」 軽量緑化工法



「F」リング」 下水道工用 推進力伝達材

INDEX

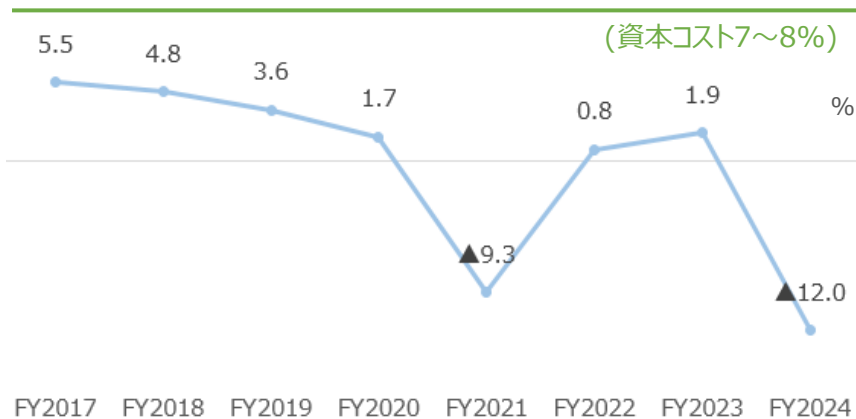
- 1 FY2024 決算概要
- 2 前中期経営計画（Spiral-up 2024）総括
- 3 新中期経営計画（Going Beyond 2027～変革と完遂～）概要
- 4 資本コストや株価を意識した経営の実現への対応

I. 現状分析および課題認識

- ▶ 2030年度 目標 : ROE=8.0%以上 (2023年1月公表)
- ▶ 2024年度 実績 : ROE、PBRともに極めて低い水準に留まる (ROE= ▲12.0%、PBR=0.33倍)

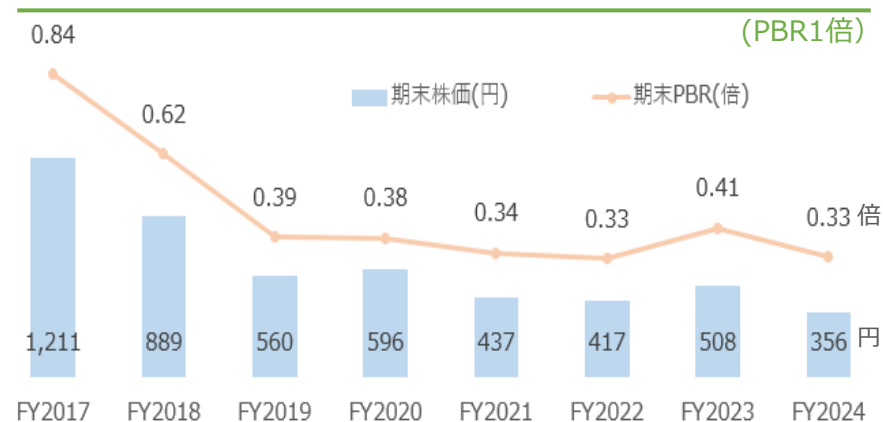
R O E

株主資本コストを下回る傾向が続く



P B R

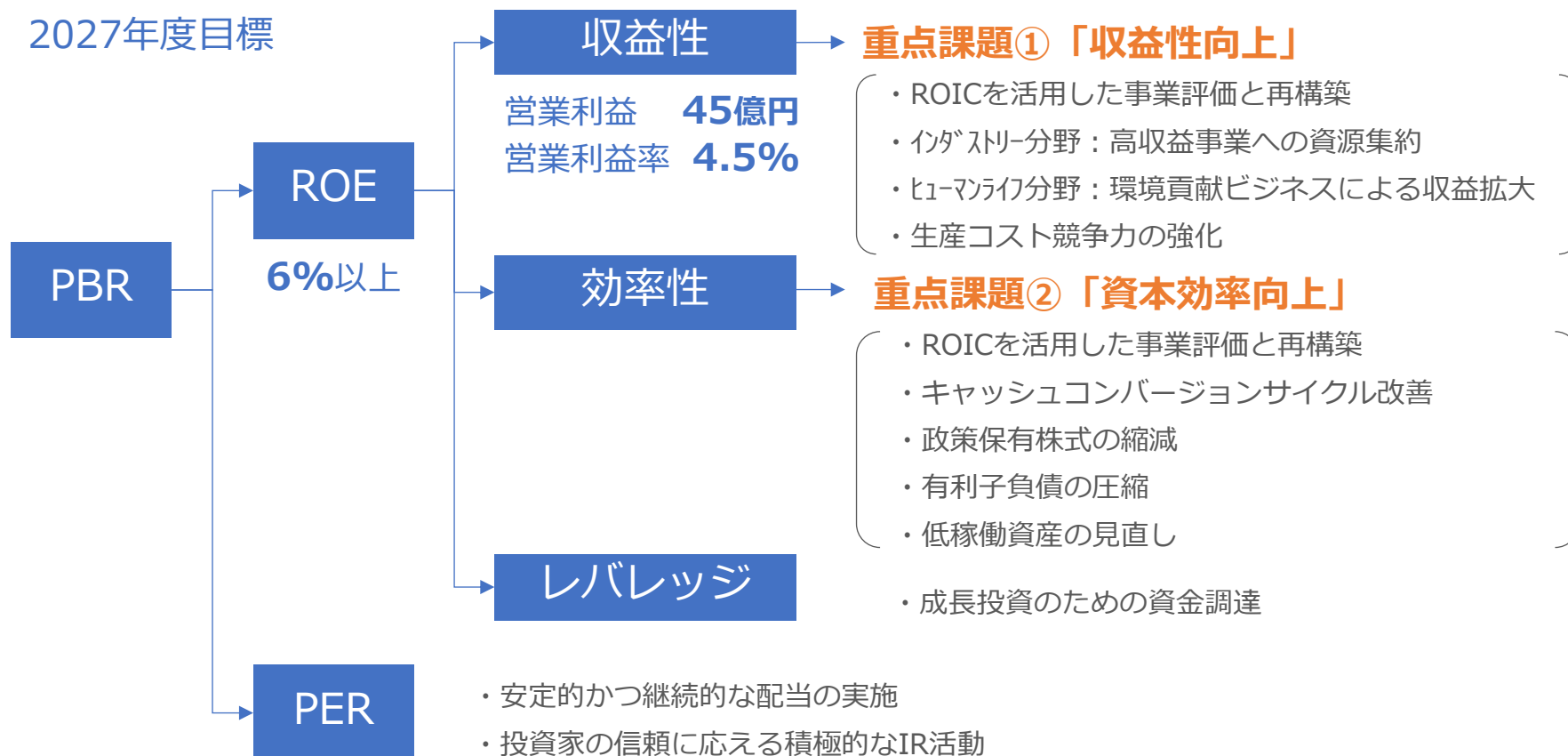
1倍割れかつ、極めて低い水準に留まる



低PBRの要因は、①「収益性の低さ」と②「資本効率の低さ」と認識

Ⅱ. PBR改善に向けた目標と取り組み

2027年度目標



重点課題を解決するための取り組みを、迅速に実行する

Ⅱ. PBR改善に向けた目標と取り組み

重点課題①「収益性向上」への取り組み

● ROICを活用した事業評価と再構築

(～FY24までの取り組み)

- ・欧州Proseat事業譲渡方針を決定
- ・拠点の整理/再編 ※積水化成品(上海)精密塑料・積水化成品堺の清算、積水化成品東北の閉鎖、積水化成品関西工場売却 など

(FY25～の取り組み)

- ・ROIC視点による事業収益力の向上、投資や事業継続判断への活用 ※ハードルレート設定、ランク付け

● インダストリー分野：高収益事業への資源集約

- ・低採算事業見直しで創出される資源を、ポリマー微粒子・北米Eli Lilly・高機能ゲルなどへ集約
- ・営業技術の一体体制による事業展開のスピード向上

● ヒューマンライフ分野：環境貢献ビジネスによる収益拡大

- ・シート事業：業界トップシェアの維持向上、機能性シートの拡販
- ・ビーズ事業：リサイクルEPS（Islebeez RNW）の競争優位性を背景にした業界内シェア向上

● 生産コスト競争力の強化 生産DXの全社展開、生産性向上、SKG改善活動の推進

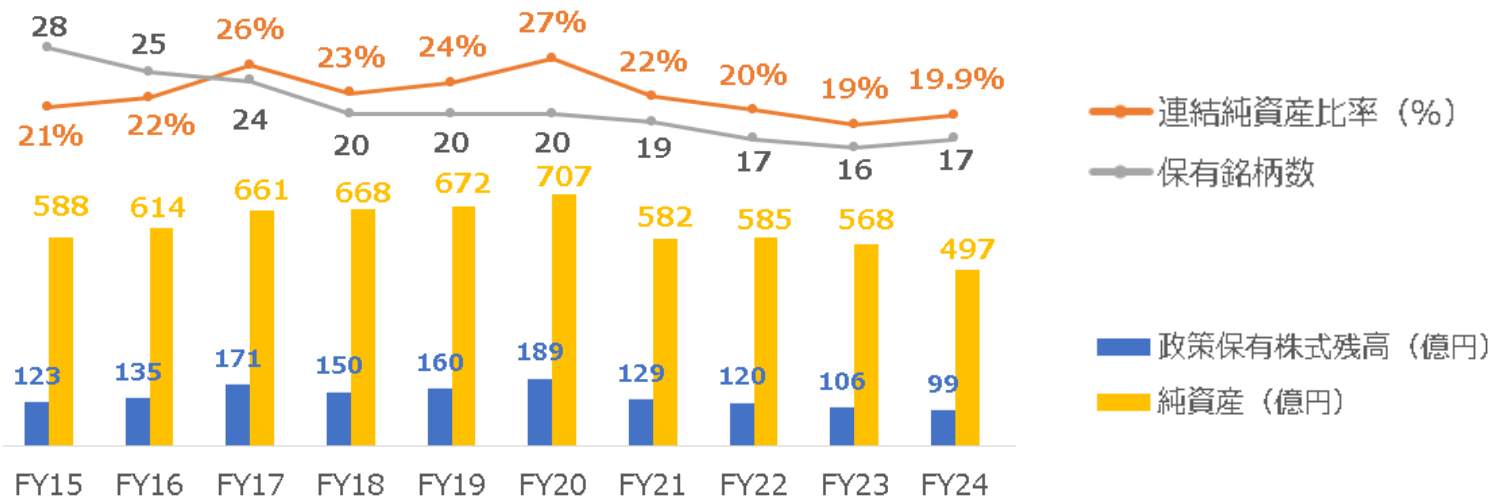
Ⅱ. PBR改善に向けた目標と取り組み

課題②「資本効率性向上」への取り組み

●キャッシュコンバージョンサイクルの改善

- ・在庫回転期間（DIO）の短縮 ※生産DXをFY24にモデル工場で効果実証済、FY25以降は他工場へ展開

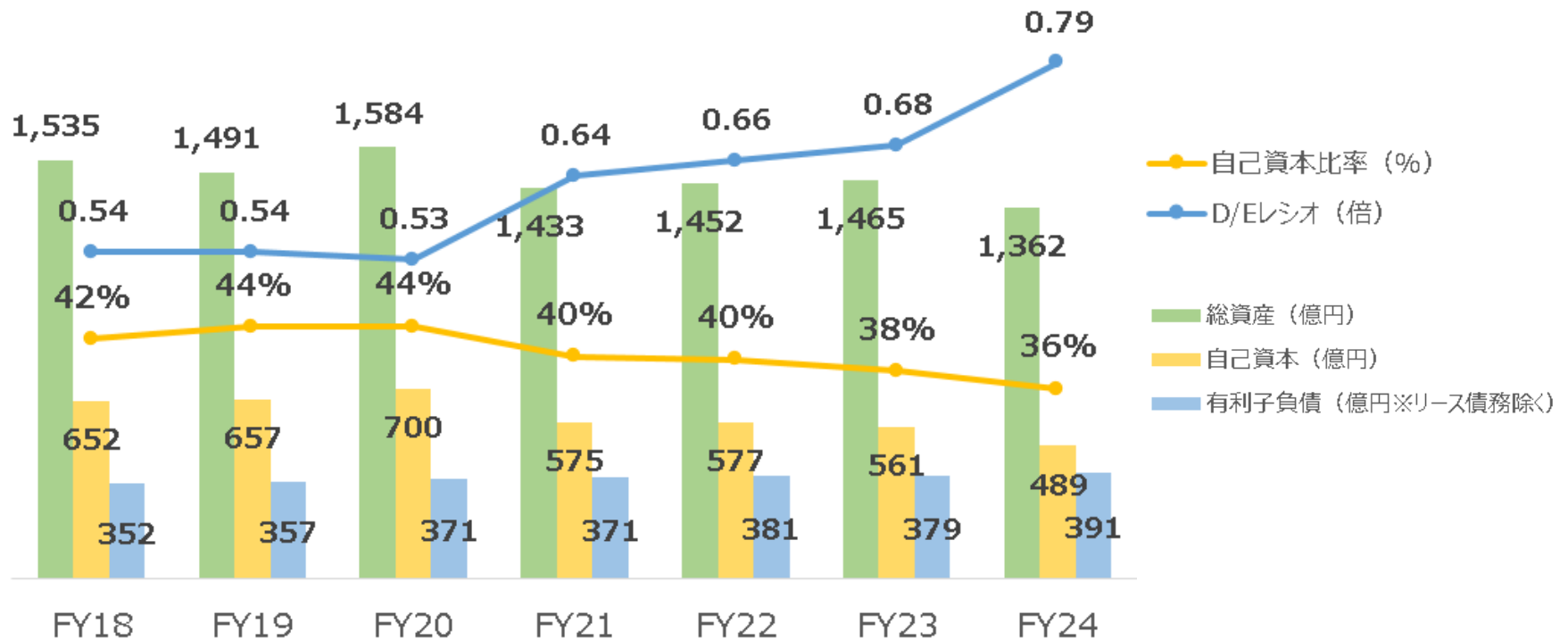
●政策保有株の縮減



- ・前中期経営計画期間（FY22～24）内に、政策保有株式を約35億円分売却
- ・2024年度末の連結純資産に占める比率は19.9%（みなし保有を除く）
- ・定期的に保有意義を確認し、適切に縮減を進めていく

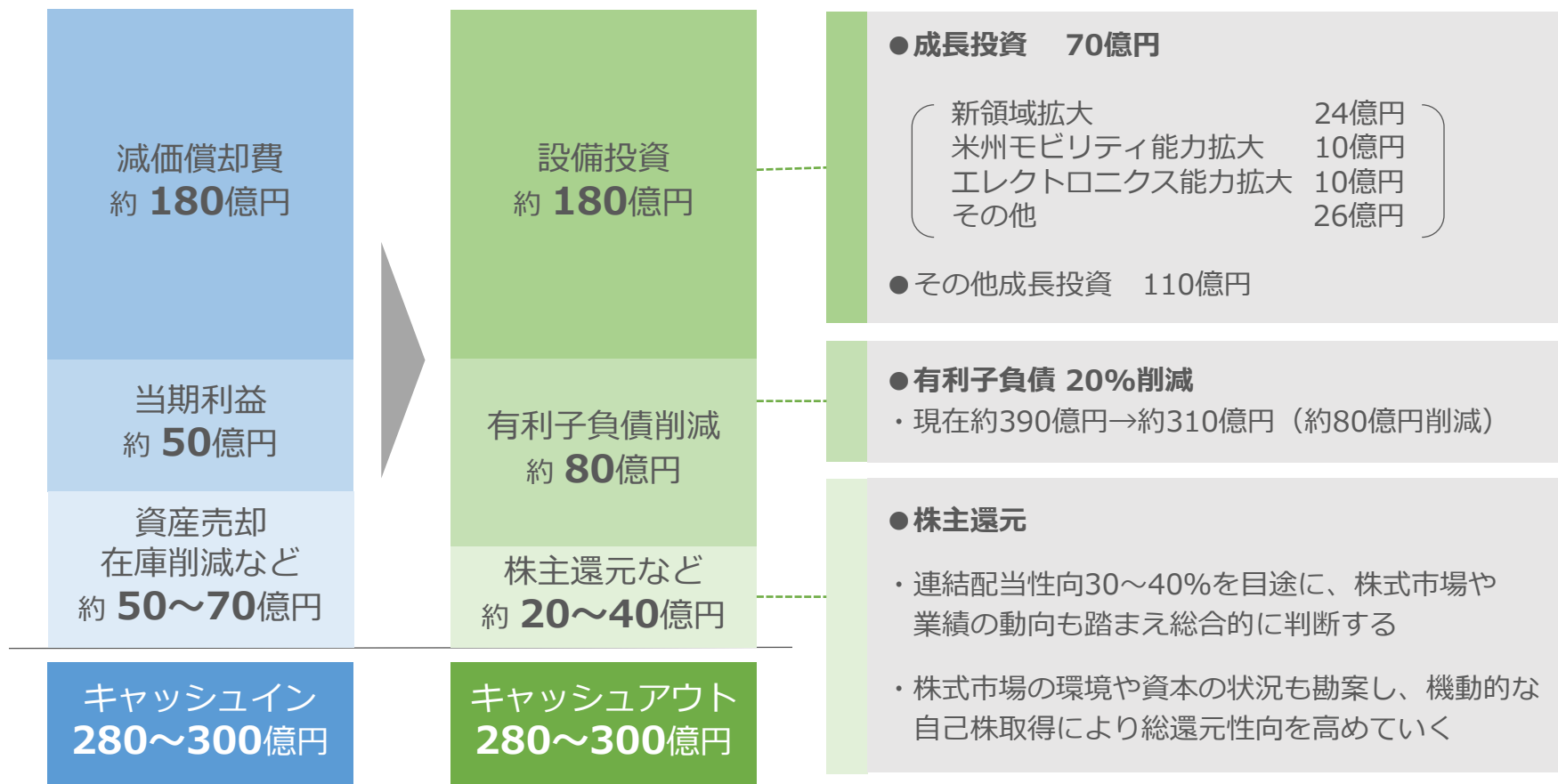
Ⅲ. 財務健全性

- 有利子負債 足元、社債を含めて390億円まで増加
- 自己資本比率 足元、40%を下回る水準に下落



有利子負債を、新中期経営計画最終年度末（FY27）までに 20%削減 する

IV. キャッシュアロケーション（FY25-27 中期経営計画期間）



営業キャッシュフローと投資キャッシュフローのバランスを図り、財務の健全性を維持する

V. 株主還元（配当）

	FY2019	FY2020	FY2021	FY2022	FY2023	FY2024 (予定)	FY2025 (予定)
1株あたり当期純利益(円)	51.29	24.86	△ 130.99	10.00	23.90	△ 138.19	—
1株あたり配当金(円)	30	21	12	12	13	3	10
配当性向(%)	59%	85%	—	—	54%	—	—
自己株式取得(百万円)	—	141.5	—	—	—	—	—
総還元性向 [※]	59%	97%	—	120%	54%	—	—
ROE	3.6%	1.6%	—	0.8%	1.9%	—	—
自己株式消却(万株)	—	—	—	—	—	—	—

※ 総還元性向 = (自己株式取得額 + 配当総額) / 当期純利益

- 2024年度は、中間配当を3円/株、期末は無配、年間で3円/株を予定
- 2025年度は、中間配当を無配、期末は復配10円/株を予定

VI. 設備投資

(単位：億円)	Make Innovations Stage- II	Spiral-up 2024	Going-Beyond 2027 ～変革と完遂～
	FY19～21	FY22～24	FY25～27
設備投資額	144	170	215
減価償却費	185	174	176

- 前中期経営計画期間（FY22～24）は、収益状況と市場環境変化により投資を抑制
- 現中期経営計画期間（FY25～27）は、高収益・高成長事業への投資を重視して実行
- 主な設備投資

FY22～24

(170億円)

- ・ 積水化成品大分リニューアル
- ・ 情報システムインフラ整備
- ・ 環境対応設備（リサイクル関連）
- ・ 省エネ、省人化設備
- ・ 研究開発設備
- ・ 大阪本社リニューアル など

FY25～27

(215億円)

成長投資（70億円）

- ・ ポリマー微粒子関連 (24億円)
- ・ 米州モビリティ能力拡大 (10億円)
- ・ エレクトロニクス能力拡大 (10億円)
- ・ その他成長投資 (26億円)

など

その他投資（145億円）

- ・ 合理化、物流、品質
- ・ 更新補修
- ・ 環境対応（燃料転換等）

など

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等はさまざまな要因により大きく異なる可能性があります。

★内容に関するお問合せは

コーポレートコミュニケーション部 E-mail : ir_pr@sekisuikasei.com

★当社のホームページもあわせてご覧ください。

アドレスは <http://www.sekisuikasei.com/>

SEKISUIKASEI[•]

Our Planet. Our Tomorrow.